

片山かおるの ちょっとカエル通信

第9号 2009年3月1日発行

片山かおるがたいせつにしたいこと

- ☺ 子どもの権利とおとなの人権
- ☺ 民主主義を活かしきる
- ☺ 足もとからの平和



片山かおるプロフィール

1966年長崎県生まれ杉並育ち。都立豊多摩高校卒業。小4・中1の男の子とパートナー、猫とともに前原町に暮らす。8ミリ映画・実験映画などを制作上映。小金井子育て交流会「す〜ぶ」、「つくろう！子どもの権利条例の会」、8mmFILM 小金井街道プロジェクト、NPO法人回帰船保育所などに参加。「教育ってなんだろう？」こがねい連絡会世話人、武蔵野はらっぱ祭り実行委員会 事務局、ワンズ・アイズ・フィルム代表。



おとなも子どもも
いっしょに育つ町にしよう

みんなで知恵を出し合って、
これからの小金井のまちづくりをいっしょに考えていきましょう。

私たちも応援しています

矢島 床子



助産院での出産のお手伝いをして出会いました。女性はやみ、育てる性を持っていきます。誰からも管理されない、自分らしい産み方、育て方、そして自分らしく強く生きていく。彼女は子どもを産み育てていく中で、社会の閉塞感や矛盾や疑問等を持ち、社会活動の必要性を感じ、特に教育において活動し始めました。この地域を変える希望と力を持っている人です、ぜひ、地方自治の場で活動してほしいと応援しています。

(母と子のサロン 矢島助産院産婦)

山田 真



不況のもと、「弱者」といわれる人たちにきびしい世の中で、党利・党略によって政治を動かす人たちに任せておくわけにはいきません。市民派の議員をふやすことが絶対必要です。片山さんを強く推します。

(小児科医)

応援します！

鎌仲ひとみ(映像作家)
地域を子どもという視点から見つめてきた片山さんを心から応援します。

サヨコ(歌い手)
お母さんの視点で、家庭からはじまる社会・政治のたいせつさを伝えていく片山さんを応援します。

雪子・F・グレイセング(制作家)
いろいろな人たちの力を引き出しながら一緒に歩いていける、信頼できる人です。

イトー・ターリ(パフォーマンス・アーティスト)
生きにくいと感じる人の声を市政に運び、だれにも住みやすいまちづくりに力を尽くしていただきたいです。

片山かおると
いっしょにかえる小金井の会
〒184-0012 小金井市中町3-10-10-103
tel&fax: 042-316-1511
e-mail: office@katayamakaooru.net
http://katayamakaooru.net



片山かおるといっしょにかえる小金井の会
(略称: かおるの会)へのお誘い

会費は年1口1,000円。カンバも大歓迎!
郵便振替口座 00120-5-357785
「片山かおるといっしょにかえる小金井の会」

片山かおるの小金井まちづくりイベント



子どもの権利とおとなの人権

「子どもの権利条約を活かし、子どもがイキイキと暮らせる町に」

- 権利学習、子ども会議などによる、地域社会への子ども参加の道づくり。
- 子どもオンブズパーソン、スクールソーシャルワーカーなど、子ども自身が相談し解決できる窓口の設置。
- 子どもの権利委員会を設立し、子ども施策をチェックする。
- 児童保育所、児童館など、子どもの居場所をもっとたいせつに。
- 「のびゆく子どもプラン小金井」に、子どもの権利・子ども支援の視点の充実を。
- 保育室への助成など格差を是正し、子どもにとって居心地のよい保育環境を整える。
- ミニFM、インターネットなどを使って、議会や教育委員会、各審議会などを中継。
- 教育委員を公募するなど民主的に選ぶシステムづくり。
- 子どもや外国人も参加できる住民投票条例を。
- 駅前庁舎建設はやめて、市民が本に必要な市役所のあり方を市民参加で検討する。
- 学校と連携して、小中学生などの社会見学に市議会を取り入れる。
- 市役所に子ども(保育)スペースを。

民主主義を活かしきる

「開かれた市政をめざす」

- 学校での子ども参加による平和教育の充実。日の丸君が代などの強制をなくし、教育現場に自由な空気を取り戻す。
- 市民レベルでの国際交流をすすめる。

足もとからの平和

「小金井から平和な世界づくりを発信」

- 戦争体験者の記憶を次の世代へ語り継ぐ。
- 平和憲法の学習、平和週間の拡大と市民活動との連携など。
- 世界各地で起こっている紛争、戦争の停止または抑止にむけて自治体からいち早く発信。

多様で自由な表現を認めよう

「コミュニティを活性化し、屋台や縁台がある路地文化の町へ」

- 道ばたでの屋台や催し、縁台を出して交流などができるよう、生活道路への車規制。
- 社会教育環境(公民館、図書館、集会施設など)を充実させ、市民活動を応援する。
- 公民館HPをつくり、講座のアーカイブを発信。市民で知識を共有する。
- 市民団体やNPOなどに市民税額の1%を支援できる「1%支援制度」を。
- はげの森美術館を表現文化発信の拠点とするため、市民と連携する。
- 民間のギャラリーやライブスペースなど表現の場づくりへの助成、広報などの支援。
- 民家、空き店舗、公園、緑地、畑、空き地などを活用して、町をアートの舞台に。

きれいな川や木と土と空気

「地球温暖化への小金井なりの取り組みを」

- 温暖化の原因になるゴミ焼却場はつぐらない。資源化施設にもなる非焼却処理を研究し、ゴミ処理先進都市へ。
- 学校での生ゴミ処理の受け入れを増やし、緑地、公園などに小さな堆肥化施設を設置。
- ゴミを出さないために、包装しない、量り売りなどの商店を奨励。
- 大規模ビルはつぐらず、リフォーム実践都市をめざし、いままある施設を有効活用。
- 有機栽培の農家への助成。学校給食や飲食店などでの需要を増やして地産地消の土台をつくる。
- 有機栽培の市民農園を増やそう。
- 車の徐行規制をすすめ、アスファルトを減らして土の道路をつくる。
- 自転車道や駐輪場を整え、自転車生活を快適に。
- 集合住宅などでのカーシェアリングの実践。

民投票に付することが適当」と定めています。明らかに、今回の市長の態度と市議会の決定は市民参加条例の精神に反するもので、市民参加、市民自治の否定であり、見過ごすことはできません。

市庁舎問題は長年にわたって、迷走しつづけています。ここで再開発第2地区での庁舎建設という市の計画もいったん白紙に戻し、市民参加での市庁舎検討委員会の設置を求めます。

小金井市議会議員選挙は3月29日投票です。
市議会議員・漢人あきこと「市民自治こがねい」も、片山かおるを応援しています。

10,000人を超える市民の直接請求による「市役所建設場所を選ぶ住民投票条例」に対して市長は反対の意見を付して市議会に提案、「住民投票条例」は市議会臨時会において1票差で葬りされました。

これまで市庁舎問題については市の方針が二転三転、その挙句の果てに再開発第2地区に多額の税金を投入し、庁舎建設を行なうという無謀な計画に、市民は苛立ち、今回の住民投票の直接請求につながりました。

住民投票は小金井市の市民参加条例において、市民参加の重要な方法として位置づけられています。またその手引きにおいては「大規模な公共施設は市

住民投票条例と市庁舎問題
についての私たちの考え



こんな小金井にしたい!

片山があるといっしょにかえる小金井の会では、みんなで知恵を出し合い、市政のあり方やまちづくりについて話し合っています。
今回は各地の寛谷的な取り組みについて調べて、小金井のまちづくりに活かすヒントを探りました。みなさんもう一歩、いかにですか?

自分の納める市民税で 市民活動を支援

2005年度に市川市でスタートした「1%支援制度」(市民活動団体支援制度)は、地域のボランティア団体やNPOなど市民の自主的活動に対して個人市民税の1%相当額を支援できるもので、納税者自身が支援したい団体を選べるのがポイント。

支援対象団体は、障害者・高齢者や子育て支援、子どものスポーツチーム、芸術・文化サークル、自然・環境団体等々、今年度その数は実に104! 小金井にも、いろいろな市民活動をしている人がたくさんいます。その活動を、市民自身が直接支援するような制度があれば、いままでなかった交流が生まれ、地域コミュニティの活性化にもつながっていくように思います。(岡崎裕貴 前原町)

地産地消と学校給食

愛媛県今治市では、学校給食に地元有機農業による食材を優先的に使用しています。生産グループと連携して、遺伝子組み換えのない自家配合飼料で育てられた鶏肉、鶏卵をつかう取り組みも始まりました。2006年には「食と農のまちづくり条例」を定め、食育を生産と消費の問題にとどめず、足もとの文化や伝統を見直して、地域の自立につなげようとしています。

近くのもの食べるって、環境やからだにもいいことばかり。また、地域の生産者をバックアップし、ご近所同士の顔が見える関係をはくむチャンスでもあります。小金井の文化を見直すこと、屋敷林や雑木林の保存にもつながります。いつもの通学路沿いの畑、小さなトマトが大きくなって、緑から真っ赤になってきた……と眺めていたら給食に出た! そんな体験、わくわくするだろうな。(原島圭子 中町)

派遣切りに自治体が支援

派遣切りで仕事ばかりか、住むところまで失ったというニュースが連日報道されています。国の対応が遅れる中、自治体による雇用支援や生活支援が積極的に取り組まれています。大阪府摂津市では緊急措置として2011年度採用枠を前倒しにして2010年度採用を10人追加募集。ユニークなところでは群馬県太田市。地元企業の減産で職を失った市民を、市職員の残業を減らし、時間外手当支給分で20人の臨時採用。いわゆるワークシェアリング的な発想です。江戸川区や稲城市では、保護者が金融機関から入学資金を借りやすいように、利子補給金を割り増し。自治体が身近なセーフティネットとしての役割を果たすことができるのか、地域社会の支えあい が問われています。(陣内直行 中町)



生「堆肥」BOX

肥料と塗料をつくる、その名も「生「堆肥」ボックス」。市内の各所に設置... 生ゴミの堆肥は、市民のみならず、草園生活に活用いたしましょう。(岩塚耕 東町)

市民の手で美しいまちを

1995年、真鶴町は「美の条例」をつくりました。「美」とは、町民が自然と暮らしの中で育んだ伝統、文化の中から「良質」と思われるものです。条例は、①場所を尊重し、風景を支配しない ②場所の記憶を再現し、町を表現する ③基準は人間。人間と調和し、周囲の建物を尊重 ④青い海と輝く緑の自然、町全体とも調和 ⑤町の材料を活かしてつくる ⑥独自の装飾と建築との一体化 ⑦コミュニティを育てる ⑧美しい眺めを育てるためにあらゆる努力を、の8原則とそれを具体化する「豊かな植生」、「舞い降りる屋根」等の69の言葉です。建築主とまちは美の基準を満たすため協議し、協働します。心に届く真鶴らしさのある条例は、まちづくりへの町民の主体的な参加を促します。(宮下美穂 緑町)

エコ アパート

エコアパートというのが 足立区にできています。
友だちが教えてくれたの。
小金井もこんな風に 思いあてやわら いてほしい。
緑の多いまち なのだからさ。
活かさないじゃあない!
住民同士が 仲良くあそぶの。
築40年のアパートを 建て替えて、エコのアパートにしよう。
建材も廃物のリサイクルを使い、シックハウスを 無縁とかが。
雨水の活用。生ゴミは腐で肥料に。 腐で畑作業。おうちは太陽集熱システムで 冬はポカポカ、夏は涼しく! いいんでしょ!!
(山内美穂 前原町)

高齢者福祉とカジノ!?

山口県のリハビリ施設「夢のみずうみ村」は「できないことにだけ手をだし、できることを奪わない。利用者が生活を楽しんでいるかを常に気にかけて、すべて自分で決めてもらう」よう運営されている施設です。

利用者は一日の予定を100近いメニューから選びます。施設内のみ通用する通貨「ユーメ」を稼ぐためのメニューもあります。たとえばカジノ! また施設内で催される各種教室の講師、タオルたたみや自分の食器の片付けなど。稼いだユーメで所内のサービスを利用するシステムなので、楽しみつつも皆さん結構真剣みたいです。それが効くのか8割に要介護度の改善・維持がみられるとのこと。やはり人間って年齢に関わらず、自分の事は自分でしたい、まわりから必要とされたいと思うものなのですね。(関根幸恵 前原町)